

富山市民病院 なんでも発表会

H29年度病院BSC中間報告

平成29年11月9日

院長

個々の職員と共に作り上げる病院

•職員の皆さんに、病院のことを知ってもらう



•どうしたら良い病院が作れるか？を考えてもらう



•職員の皆さん一人一人に行動してもらう



•共に、「誇りの持てる病院」を作り上げましょう

3つのプラン

- ①「院長と語ろう」計画
- ② 病院全体ブレスト計画
- ③「隣は何をする人ぞ」計画

隣は何をする人ぞ

ドナルド・キーン (Donald Keene)

コロンビア大学名誉教授。1922年ニューヨーク生まれ。日本文学・日本文化の研究と海外への紹介に対し、勲二等旭日重光章、菊池寛賞、日本文学大賞などを受ける。2002年文化功労者。著書『日本文学の歴史』『百代の過客』『明治天皇』など多数

もうずいぶん昔のことですが、大阪の適塾で司馬遼太郎さんと対談した後に、二人で御堂筋を歩きました。南御堂の前では、芭蕉翁終焉の地の石碑の傍らに立ち、松尾芭蕉がこの地で生涯を閉じたことやその後の時代の移り変わりについて語りました。私が、長年の夢がかなって日本にやって来たのは、昭和二十八(一九五三)年のことです。京都に二年間留学し、近松門左衛門について博士論文を書きましたが、同じ元禄時代に生きた井原西鶴や松尾芭蕉にも、やはり深い関心をもっていました。

松尾芭蕉は、51歳の人生を終える少し前、元禄七(1694)年9月に大坂を訪れました。南御堂前、御堂筋の緑地帯に芭蕉翁終焉の地の碑が建つ。

秋深き隣は何をする人ぞ

宿の中で音が聞こえます。その人の顔は分からない。でもその音を聞いて、どういう人だろうかと考える。他人への興味の素朴な表明です。やはり芭蕉は世捨人ではなく社会の中に生きる人でした。(ドナルド・キーン氏による芭蕉の句の英訳)

Autumn has deepened I wonder what the man next door does for a living ?

芭蕉の時代、大坂の俳句は、商人たちの趣味としての教養のひとつでした。そして大坂が天下の台所と言われたこの時代、どこの藩でも米の商いに大坂に行く人はみな「大坂弁」ができたそうです。いわば当時の「国際語」です。多分このおかげで、伊賀上野出身の芭蕉の言葉が、奥の細道でも通じたのでしょう。

大阪ガス ガスビル食堂物語から抜粋

③「隣は何をする人ぞ」計画

- 他の部署やチームの活動を知って欲しい
- 頑張った人を褒めたい
- 頑張った人に共感して欲しい
- 成果や成功体験を共有してもらいたい
- 少しは自慢する場があっても良いだろう

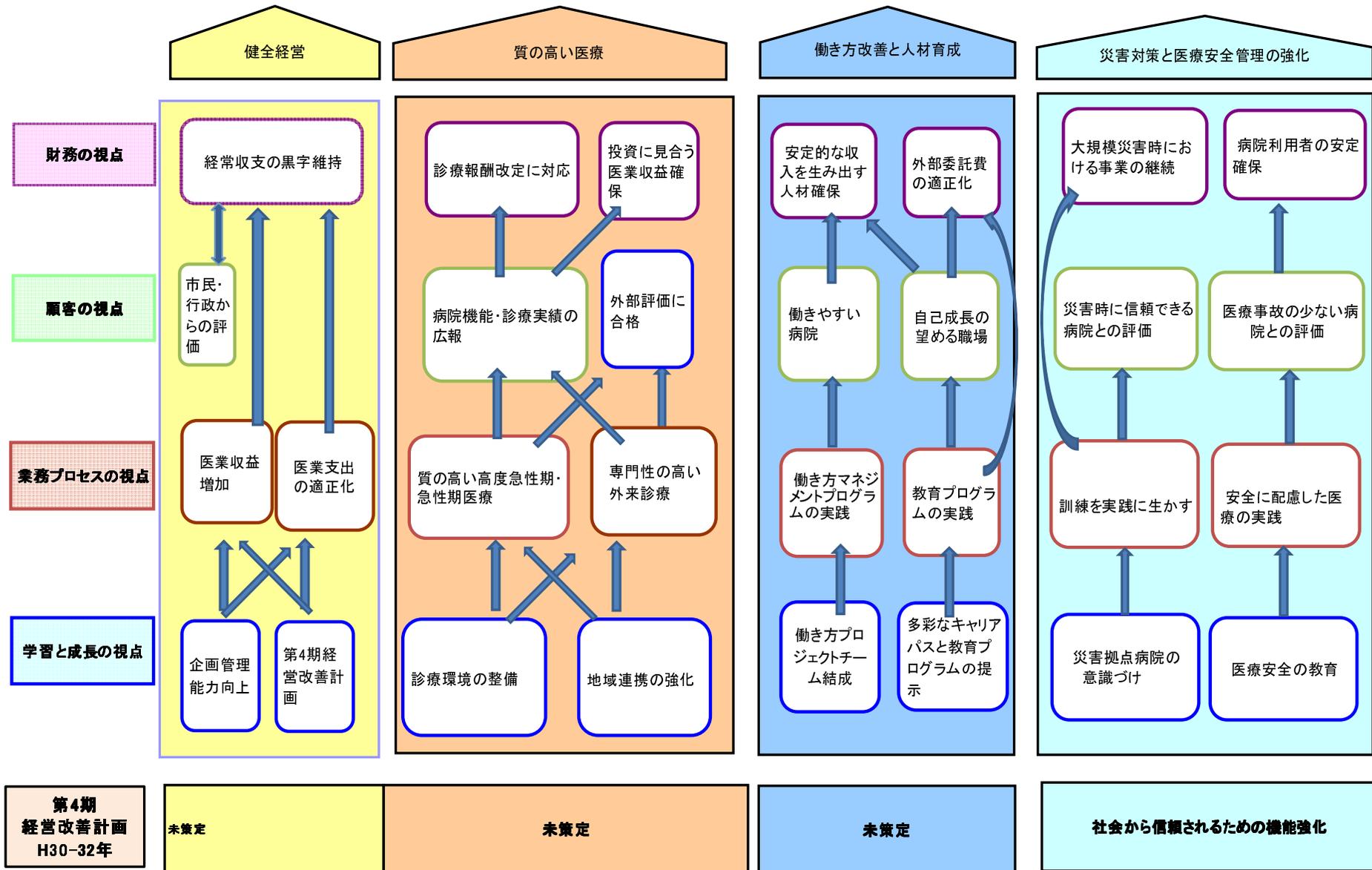
成果を発表する場を設けます

H26年1月17日 院内何でも発表会

H29-32年度の目標：病院運営基盤の再構築

H29年度の目標：長期病院運営の基本設計

H29年のキーワード：リモデリング



H29-H32年の4年間の戦略 ☆

富山市民病院のビジョン: 地域医療のリーダー病院になる

H29-32年の目標: 長期病院運営基盤の再構築

H29年度目標 : 再構築の基本設計

H28年度キーワード: リモデリング

健全経営

質の高い医療

働き方
と
人材育成

災害対策
と
医療安全

健全経営

財務の視点

経常収支の黒字維持

顧客の視点

市民・行政からの評価

業務プロセスの視点

医業収益増加

医業費用適正化

学習と成長の視点

企画管理能力向上

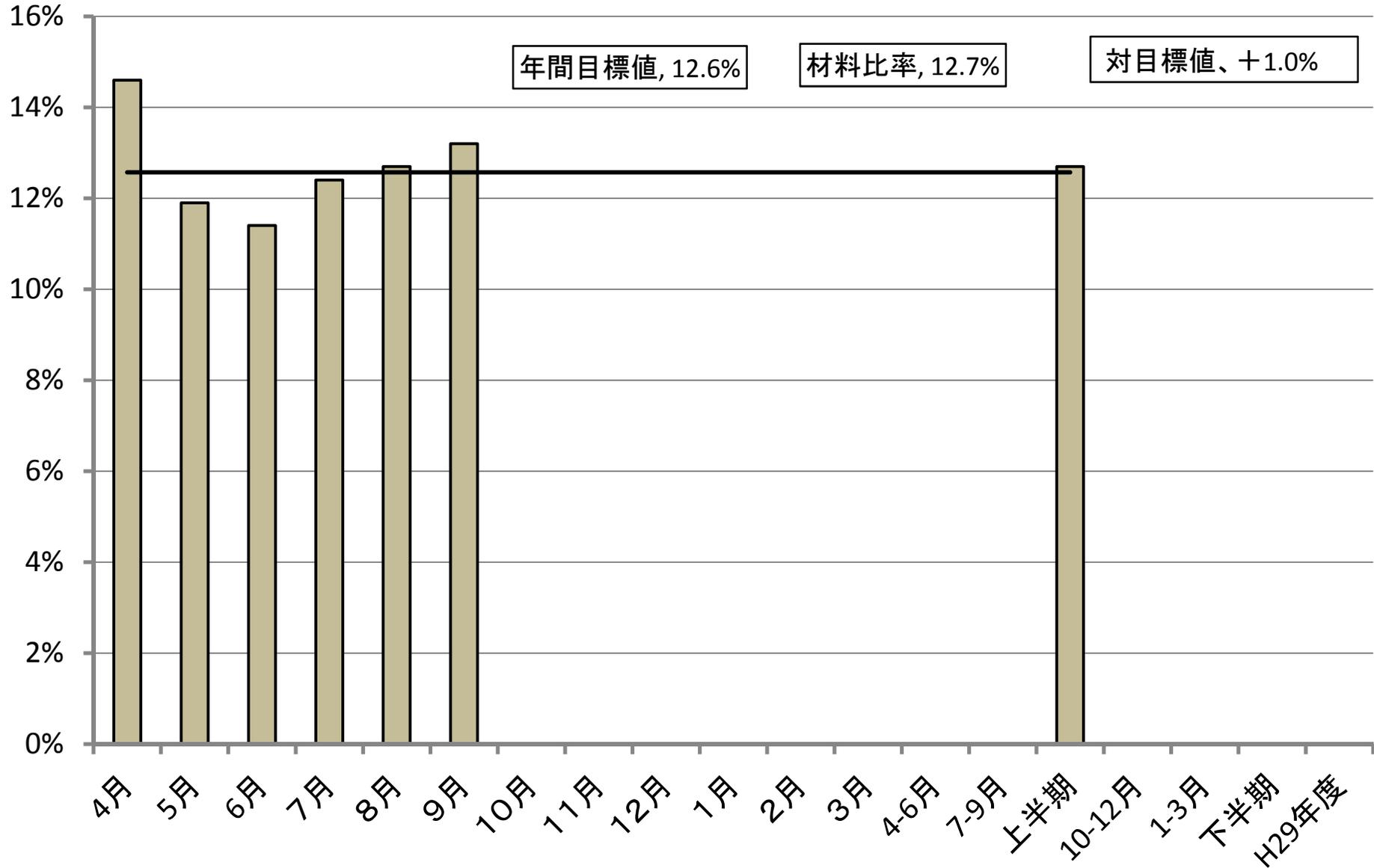
第4期経営改善計画

健全経営

視点	H29-32年 戦略目標	H29年重要成功要因 CSF	重要業績評価指標 KPI	KPIの 目標値	KPI中間目標 値
					4-9月
財務	経常収支の黒字 維持	経常収支の黒字(化)	経常収支率	100.9%	/
顧客	市民・行政からの 評価	公立病院改革プラン 更新	経営改善委員会で 承認	H30年2月	第1版9月
プロセス	医業費用の適正 化	材料費の適正化	材料費率	23.8%	12.6%
		薬剤費の適正化	薬剤比率		10.6%
	医業収益の増加	診療単価の上昇	入院診療単価(全 体)	55,000円	55,000円
		新規入院患者数の増 加	新規入院患者数	950人/月	950人/月
学習と成長	企画管理能力の 向上	医事業務管理力向上	H30年診療報酬改 定重点対策の提言	視点(重点項 目)ごとに1つ	/
		購買価格交渉力強化	高額医療器械入札 率	80.0%	/
	第4期経営改善計 画策定	第4期経営改善計画 策定	経営改善委員会で 承認	1月	第1版9月

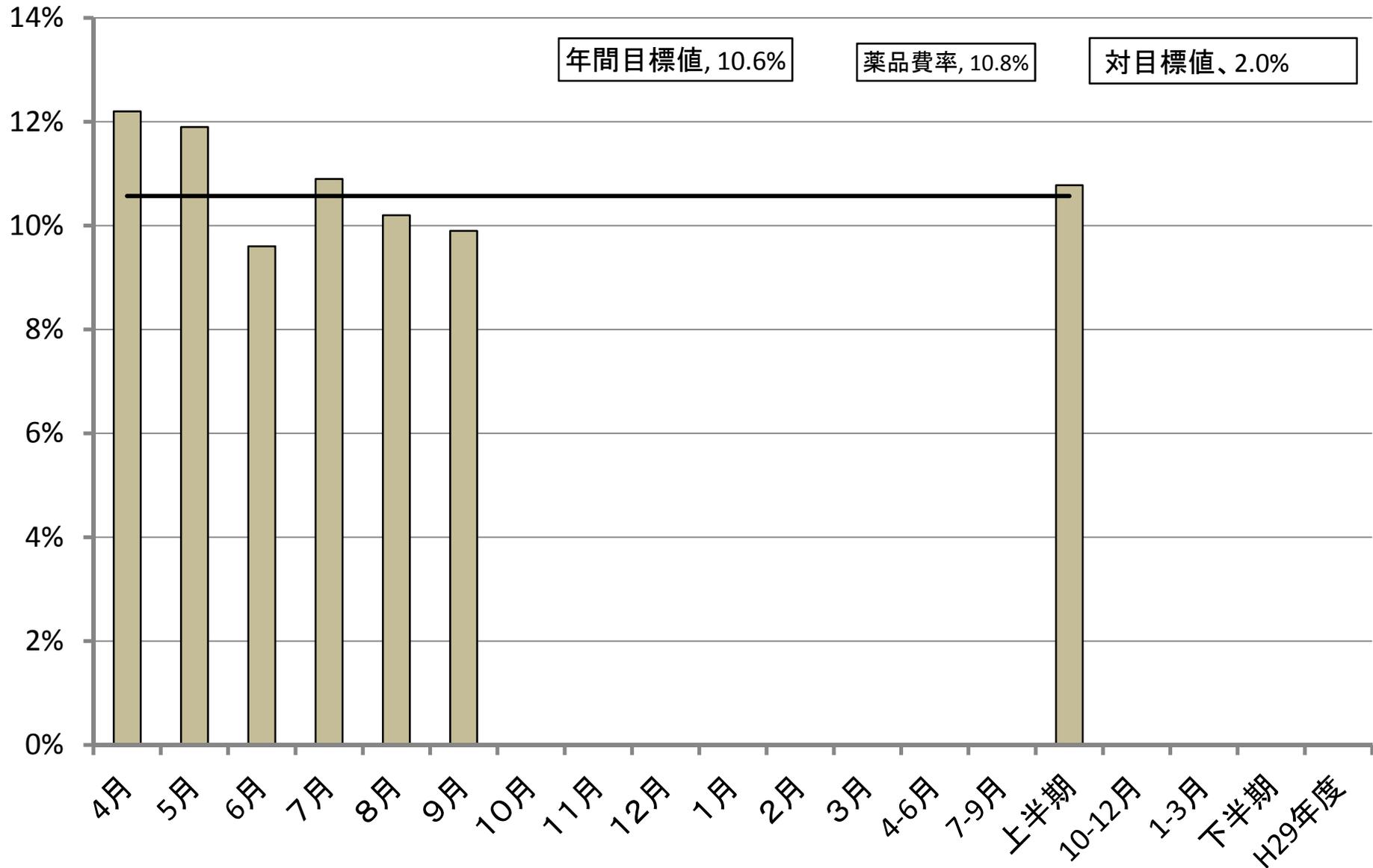
H29年度上半期 材料比率

■ 材料比率 一年間目標値

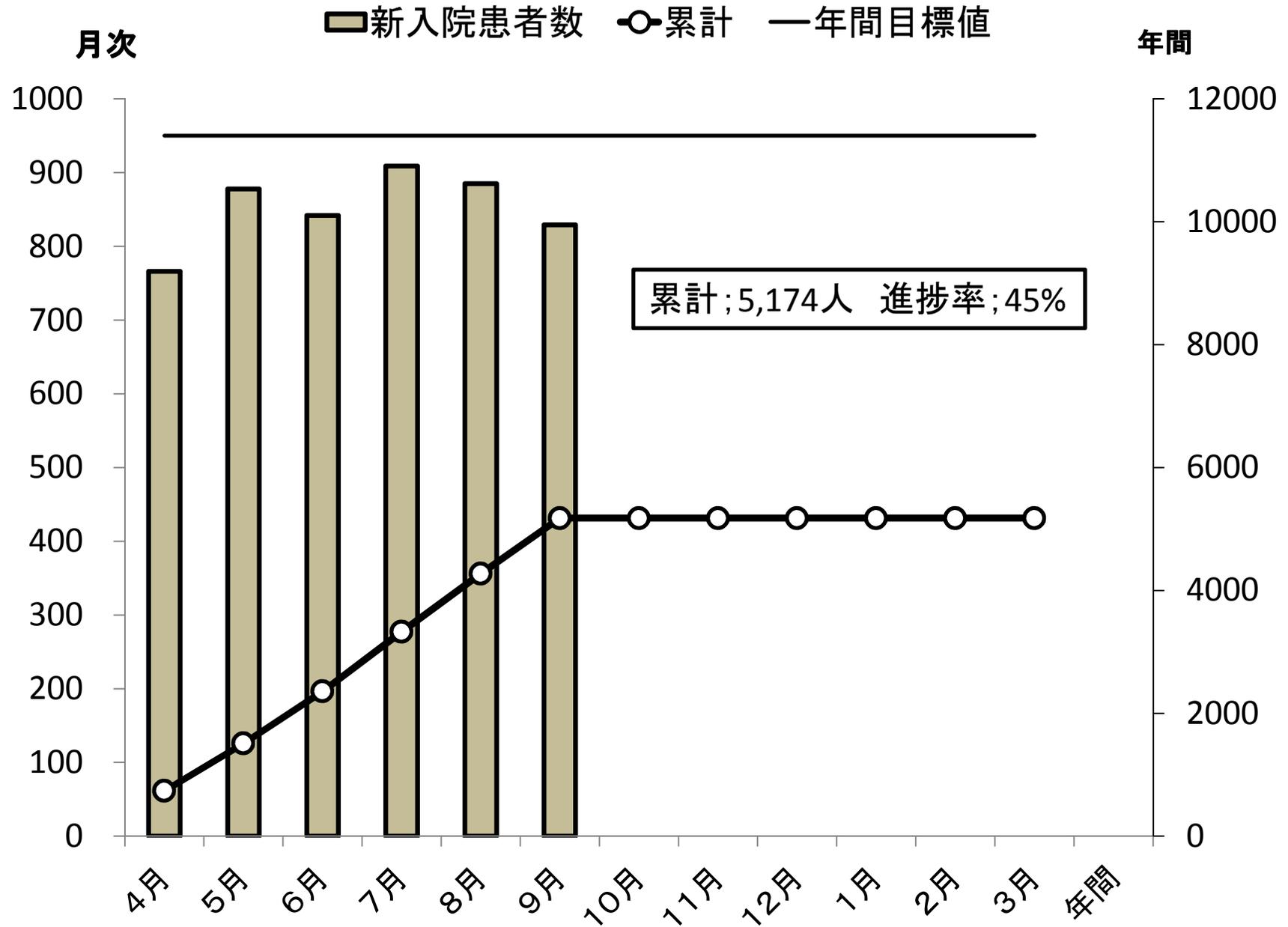


H29年度上半期 薬品比率

■ 薬品費率 一年間目標値



H29年度上半期 新規入院患者数(人)



質の高い医療

財務の視点

診療報酬改定に対応

投資に見合う医業収益
確保

顧客の視点

病院機能・診療実績の
広報

外部評価に合格

業務プロセスの視点

質の高い高度急性期・
急性期医療

専門性の高い外来診
療

学習と成長の視点

診療環境の整備

地域連携の強化

質の高い医療

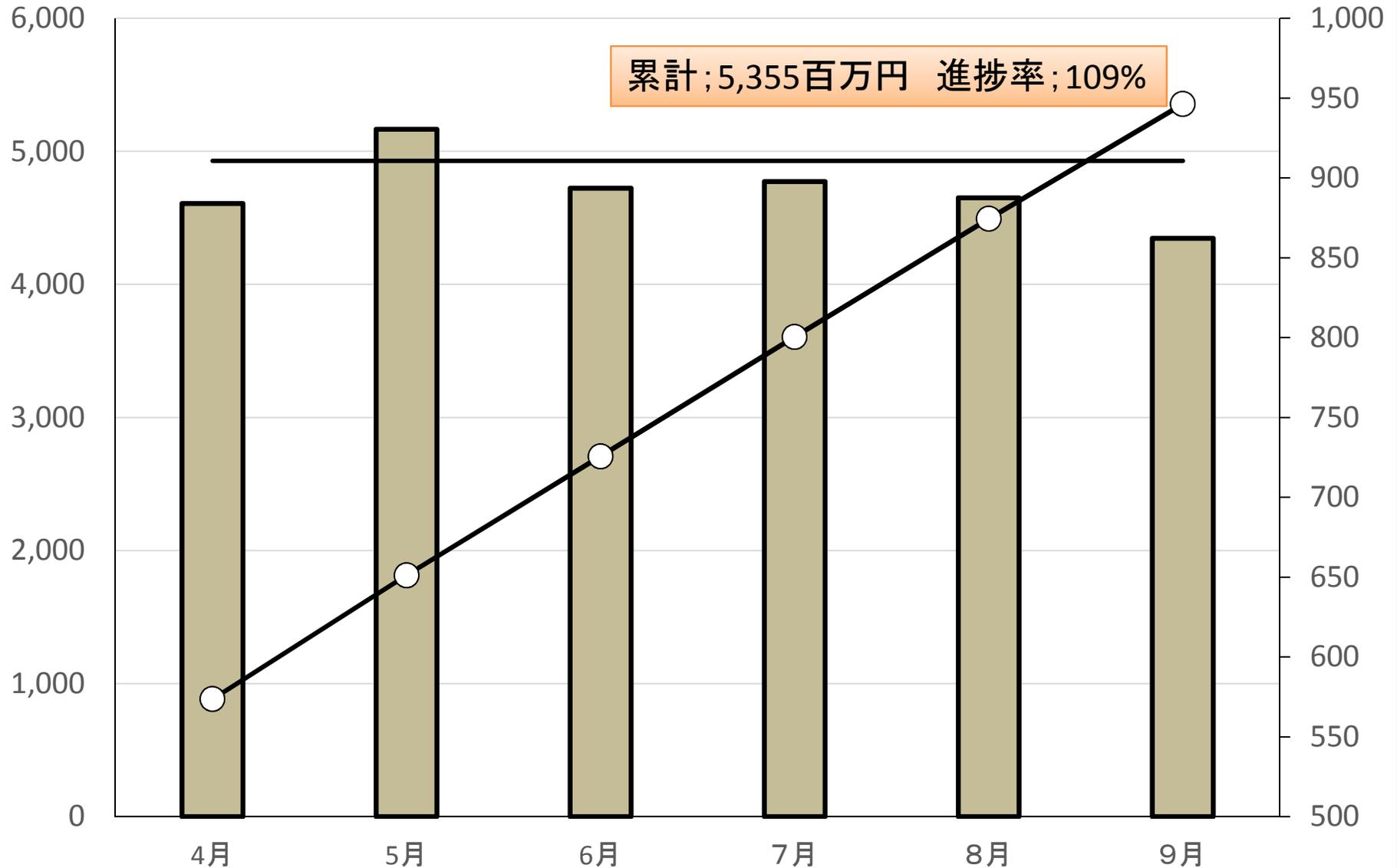
視点	H29-32年 戦略目標	H29年重要成功要因 CSF	重要業績評価指標 KPI	KPIの目標値	KPI中間目標値 4-9月
財務	H32年改定をクリア	H30年改定で予想される必要度要件を満たす	重症度医療看護必要度	毎月28%以上	毎月28%以上
		延べ患者数の確保	延べ入院患者数	150,000人/年	70,000人/半年
	投資に見合う医業収益確保	医業収益増加	医業収益	12,320百万円/年	4,928百万円/半年
顧客	病院機能・診療実績の広報	HPコンテンツの刷新	全てのコンテンツのアップデート完了	年3回	1回
	外部評価を受審	病院機能評価機構の認定取得	認定取得	取得	
プロセス	質の高い高度急性期・急性期医療	機能評価係数が高い	機能評価係数Ⅱの偏差値	65	
		総合入院体制加算の実績要件が高い	全身麻酔件数	2,600件/年	1,300件
	専門性の高い外来診療	専門的な指導・管理の実践	指導料・管理料の取得点数(金額)	384,000千円	192,000千円
		必要な検査の適切な実施	外来診療単価	12,000円	12,000円
学習と成長	診療環境の整備	業務改善された電子カルテ構築	計画に沿ってベンダー選定を完了	3月まで	
		5年後の医療機能を見据えたCT選択	CTの機種を決定	9月まで	
		10年後の手術環境を見据えた手術室	手術部改修の基本設計完了	3月まで	
	前方連係・後方連携の強化	紹介元のニーズにあった診療体制	紹介率	64.0%	64.0%
		回復期機能の病院との連携強化	入院期間Ⅱ超過割合	28.0%	28.0%

H29年度上半期 医業収益

累計(百万円)

単月(百万円)

■ 医業収益 ○ 累計 — 上半期目標値



働き方と人材育成

財務の視点

安定的な収入を生み出す
人材確保

外部委託費の適正化

顧客の視点

働きやすい病院

自己成長の望める職場

業務プロセスの視点

新しいチーム医療の実践

教育プログラムの実践

学習と成長の視点

プロジェクトチーム結成

多彩なキャリアパスと
教育プログラムの提示

働き方

視点	H29-32年戦略目標	H29年重要成功要因 CSF	重要業績評価指標 KPI	KPIの目標値	KPI中間目標値4-9月
財務	安定的な収入を生み出す人材確保	採用応募者の増加	採用募集の倍率上昇	1.6倍	
顧客	働きやすい病院	会議の改善成果の周知	HPで広報または成果発表	2月に中間報告	
プロセス	働き方マネジメントプログラムの実践	会議の改善	院内会議の時間数×人数の縮減	下半期が上半期から30%減	上半期(比較対象)のデータ集計
学習と成長	働き方プロジェクトチーム結成	ファシリテーション技術向上	ファシリテーションセミナー受講者数	100人/年	

人材育成

視点	H29-32年戦略目標	H29年重要成功要因 CSF	重要業績評価指標 KPI	KPIの 目標値	KPI中間目標値
					4-9月
財務	外部委託費 の適正化	外部委託費 率上昇の鈍 化	外部委託費 ÷ 医業収益	10%以下	
顧客	自己成長の 望める職場	早期離職者 数の減少	早期離職者 数(3年以内)	3人以内	0人
プロセス	教育プログラ ムの実践	選定された一 階層での研 修実施	研修参加率 (参加者数÷ 階層人数)	70%	
学習と成長	多彩なキャリ アパスと教育 プログラムの 提示	キャリアマト リックスの理 解	キャリアマト リックスの説 明回数	各部署1回	半数の部署 で実施

災害対策と医療安全管理の強化

財務の視点

大規模災害時における
事業の継続

病院利用者の安定確保

顧客の視点

災害時に信頼できる病院
との評価

医療事故の少ない病院
との評価

業務プロセスの視点

訓練を実践に生かす

安全に配慮した医療
の実践

学習と成長の視点

災害拠点病院の意識づけ

医療安全の教育

災害対策

視点	H29-32年戦略目標	H29年重要成功要因 CSF	重要業績評価指標 KPI	KPIの目標値	KPI中間目標値4-9月
財務	大規模災害時における事業の継続	大規模災害時の事業継続計画改定	事業継続計画の改定回数	2回	1回
顧客	災害時に信頼のできる病院との評価	災害拠点病院としての役割を果たせる	大規模災害訓練実施回数	2回	1回
プロセス	訓練を実践に生かす	部署の特性に応じた災害訓練の実施	防災訓練を実施した部門数	全部署	訓練計画提出
学習と成長	災害拠点病院の意識づけ	大規模災害対応能力の個人レベルでの向上	職員個々のレベルの評価方法確立	改善した方法での評価実施	昨年度の評価

医療安全

視点	H29-32年戦略目標	H29年重要成功要因 CSF	重要業績評価指標 KPI	KPIの目標値	KPI中間目標値4-9 月
財務	病院利用者の安定確保	重大な医療事故がない	Ⅲb以上の医療事故の減少	10件以内	5件以内
顧客	医療事故の少ない病院との評価	病院指標のHP掲載	医療安全関連指標の公表数	5件	指標を選定済み
プロセス	安全に配慮した医療の実践	Team-STEPPSの浸透	Team-STEPPSを理解している職員の割合	対象職員の80%以上	80%以上
学習と成長	医療安全の教育	医療安全研修(院内外)の受講	最低1回受講した職員の割合	対象職員の90%以上	仕組み作成済み

まとめ

- 上半期はまずまずの進捗状況でした
- 下半期も皆で目標達成していきましょう